

学生の検索ワードに着目した 絵本データベース作成の試み

森 木 朋 佳

The Challenge of Constructing a Database of Picture Books at Kagoshima Immaculate Heart
College Library, Taking Notice of Key Words that Students Select

Tomoka Moriki

平成25年度に担当した「こども学研究」という科目では、4名の学生がグループによる卒業研究で、学内図書館に所蔵されている絵本の一部についてデータベース化することに取り組んだ。これらの学生の取組みの概要は「図書館と連携した絵本データベース作成の試み」(森木, 2015)で報告した通り、テーマやキーワードの選定が適切であったか、学生の作成した「絵本データベース」で検索した絵本は利用者が探していたあるいは出会いたいと思っていた絵本とどの程度一致したか等、課題も多く残されたが、学内図書館に所蔵されている絵本の書誌情報に「テーマ」や「キーワード」を追加することで、タイトルや作者以外の情報で絵本を検索できるようした試みは、「保育のための絵本データベース」を構築していく上で、大きな示唆を与えるものであった。

本稿は、「保育のための絵本データベース」を構築するにあたって、どのような「テーマ」や「キーワード」を付すことが望ましいのかについて検討しようとするものである。

Key Words: [絵本の選択][保育内容「言葉」][絵本データベース][大学図書館]
[保育・教育実習]

(Received September 26, 2016)

1 問題

「絵本の読み聞かせ」は、保育所や幼稚園などで日常的に行なわれている保育実践の一つで、平成27年度鹿児島県図書館大会でも、幼稚園や小学校における読み聞かせの実践報告がなされる等¹⁾、保育者や保護者による読み聞かせ活動、保育所や幼稚園での絵本貸し出し活動の例はよく見聞きする。保育所や小学校での読み聞かせ活動に参加している筆者自身も、絵本の読み

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

聞かせは保育の現場で積極的に取り入れられていると感じる保育実践の一つである。保育者養成課程を持つ本学こども学専攻では、読み聞かせ活動が広く行われていることを踏まえ、「絵本の読み聞かせ」という科目を設置している。この授業で取組んでいる絵本リストの作成は、絵本の読み聞かせが日常の保育の中で頻繁に行なわれていること、また学生や卒業生から「3歳児のクラスにふさわしい絵本が知りたい」「午睡の前に読み聞かせるならどの絵本を読めばいいか」というような、絵本の選定についての具体的な質問を受ける機会が増えたことを受けてはじめての取組みである。絵本リストとは、読んだ絵本についてテーマやキーワードの情報を付し図1のように一覧表にして記録しておくものである。絵本の中には、例えば「おふとん かけたら²⁾」のように、タイトルから内容や読み聞かせる場面を連想しやすい作品もあれば、「ごろりん ごろん ころろろ³⁾」のように、タイトルだけでは連想しにくい作品もある。また、読んだ絵本の内容やイメージは曖昧には覚えていても、タイトルや作者名を正確に覚えておくことは、意識的に行わない限りそう容易なことではない。せっかく実習や日々の保育の準備として絵本を読んでも、いざ子どもの前で読み聞かせようとしたときに、思い出せないのでは意味がないが、こうした問題の多くは、絵本の情報を整理して記録しておくことで解決される。絵本リストに読んだ絵本を記録し必要なときに資料として参照することで、その場にある絵本をとりあえず読んでやり過ごすのではなく、より積極的にその時々に必要な絵本を子どもに提供できる。

番号	タイトル	作者	テーマ	キーワード	対象年齢
1	三びきのやぎのがらがらどん	マーシャ・ブラウン絵	ノルウエーの昔話 冒険	やぎ トロル	4歳から
2	てぶくろ	エウゲーニー・M・ラチョフ絵	ウクライナ民話 やりとり 冬	てぶくろ かえる ねずみ 動物	3歳から
3	にんじんさんがあかいわけ	まつたにみよこ	おふる	ごぼう にんじん だいこん おふる せいかく	1歳から
...					

図1 絵本リスト (イメージ)

ところで、授業で取組んでいる「絵本リスト」は、個人が利用することを目的としているので、テーマの設定やキーワードの選定は学生個人に任されている。従って、注目するところや印象に残った場面が違えば、同じ絵本を読んでも同じテーマやキーワードが付されるとは限らない。過去4名の学生がグループで取り組んだ卒業研究⁴⁾も、図書館の蔵書をテーマやキーワードで検索できるようにしたいという着眼点は評価できても、同様の理由で選定した「テーマ」や「キーワード」の汎用性について課題が残る⁵⁾。「絵本心理学」の構想に基づき、6つの大主題と280個の主題を用いて「子どもの心を理解するための絵本データベース」を構築した佐々木(2000)は、主題の選定にあたって「そのためにも、下位主題の選定にはかなり多くの時間をかけました。まさにデータベースの思想・理念が問われるところです⁶⁾」と述べており、「保育のための絵本データベース」の構築考える上で、誰もが思いつきやすいテーマやキーワードを設定する事ができるかどうかは、かなり重要な要素と考えられる。

佐々木(2000)は、「児童文学や図書館学の視点から抽出された主題分類を参考にしながら新たに発達心理学の観点から主題を再構成するならば、現代の子どもたちの発達を意味づける

解釈するための新たな発達理論が構築できる⁷⁾」との立場から、6つの主題を設定しているが、これらの主題、すなわち「生活と自立」「自我・自己形成」「友達・遊び」「性格」「心」「家族」は、乳幼児を対象とする保育者にとっても大いに参考になるものと考えられる。一方で、子どもの心の発達の理解を目的とした「子どもの心を理解するための絵本データベース」と子どもに読み聞かせるための絵本の検索を目的とした「保育のための絵本データベース」では、共通する部分はあっても目的にはやや差があり、特に下位主題については、佐々木（2000）が設定した280語がそのまま利用できるとは考え難い。したがって、それら既存の下位主題を書誌情報としてそのまま学内に所蔵されている絵本に付す事では、「保育のための絵本データベース」の作成は難しいと思われる。

そこで本研究では、佐々木（2000）の設定した下位主題を精査することで、「保育のための絵本データベース」を作成するにあたって、どのような「テーマ」や「キーワード」を書誌情報に付す事が必要なのか検討したい。

2 研究の方法

1) 対象

対象は、平成28年度の前期に「絵本の読み聞かせ」の授業を履修した学生58名である。この授業は2年次の科目として設置されており、受講した学生は1年次に幼稚園教育実習Ⅰ及び保育実習Ⅰ（保育所・施設）を経験しているため、多くの学生が実習の場で「絵本を読み聞かせる」という経験をしている⁸⁾。また対象の学生は授業で「絵本リスト」の作成方法と使用目的について説明を受けた後、授業の課題として「絵本リスト」の作成に取り組んでいる学生達である。そのため、絵本からキーワードを想起したり、絵本とキーワードを結びつけて考えたりする作業を調査までに複数回経験したことがある学生と位置付けることができる。

2) 方法

対象の学生に、「絵本の読み聞かせ」の授業で調査の目的を説明し、2016（平成28）年6月14日～2016（平成28）年7月29日の定められた期間内にMoodle上から回答するよう求めた。

具体的には、「次に示すキーワードについて、子どもに読み聞かせることを想定した絵本を選択する際に利用するかどうか、4つの選択肢の中からあてはまるものをひとつ選択してください」と教示し、佐々木（2000）が示す6つの大主題についてそれぞれの下位主題、計280個について「利用する」「やや利用する」「やや利用しない」「利用しない」の選択肢から1つ選択するよう求めた⁹⁾。Moodle上のフィードバックは大主題（以下、領域という）ごとに作成し、280個の小主題について一度に全て回答してもよいし、領域ごとに回答してもよいものとした。

3) 倫理上の配慮

対象の学生への説明は授業の中で行ったので、調査への協力は任意であり、協力をしてもらいたいと思う場合にのみ回答すること、また、調査に協力する・しないや、回答の内容によって不利益が生じることがないことを、特に丁寧に説明した。

4) 分析方法

Moodleの分析機能を利用して集計を行った。また、「利用する」(+3)、「利用する」「やや利用する」(+1)、「やや利用しない」(-1)、「利用しない」(-3)の重み付けを行い、スコアを算出した。

3 調査の結果

1) 調査期間及び回答率

調査期間：2016（平成28）年6月14日～2016（平成28）年7月29日

回答率：領域「生活と自立」87.7%（57名中50名）、領域「自我・自己形成」78.9%（57名中45名）領域「友達・遊び」73.7%（57名中42名）領域「性格」70.2%（57名中40名）領域「心」66.7%（57名中38名）領域「家族」63.2%（57名中36名）、6つの主題の平均回答率73.4%

2) 領域と下位主題

領域とその下位主題は、以下のように分類される。

(1) 領域「生活と自立」

座る／歩く／着る／脱ぐ／見る／聞く／触る／におう／味わう／食べる／好き嫌いを
する／眠る／一人で眠る／起きる／お風呂に入る／おまるに座る／おもらしを
する／おねしょをする／指を吸う／愛着物を持つ／動物の世話を
する／植物の世話を
する／話す／読む／書く／考える／手伝う／お使いにいく／留守番を
する／片付ける／子守りをする／料理をする／待つ／働く／訪ねる／口笛を吹く／三輪車に乗る／自転車に乗る／一人で電車に乗る／一人旅／泳ぐ／手紙を書く／電話をかける（43個）

(2) 領域「自我・自己形成」

反抗する／自己主張する／自信をもつ／自尊心をもつ／自己を確認する／他者を認識する／劣等感をもつ／失敗する／喪失する／孤独になる／消耗する／不安を感じる／嫉妬する／挫折する／偏見を持つ／差別する／癖をもつ／きょうだいの誕生／ペットの死／乳歯が抜ける／誕生日／引越し／入学・入園／父母の離婚／父母の再婚／祖父母の死／死／継父（義理の父）／継母（義理の母）／叱られる／誉められる／迷子になる／旅行する／少年になる／少女になる／価値観をもつ／願望をもつ／育む／登校を拒否する／家出する／自己と対話する／自然と対話をする／一人の時間をもつ／月・星を眺める／夕陽を眺める／雲を眺める／幸福な思い出／不幸な思い出（48個）

(3) 領域「友達・遊び」

ごっこ遊び／冒険遊び／空想遊び／一人遊び／自然の中の遊び／四季の遊び／きょうだいと遊ぶ／父と遊ぶ／母と遊ぶ／祖父と遊ぶ／祖母と遊ぶ／友達と遊ぶ／ままごと／かくれ

んぼ／水と遊ぶ／海と遊ぶ／砂と遊ぶ／泥と遊ぶ／雪と遊ぶ／風と遊ぶ／雨と遊ぶ／木と遊ぶ／玩具と遊ぶ／家具と遊ぶ／日用品と遊ぶ／動物と遊ぶ／架空の動物と遊ぶ／風船と遊ぶ／人形・ぬいぐるみと遊ぶ／手袋・帽子・靴下・傘・マフラー等と遊ぶ／お風呂で遊ぶ／穴を掘る／ブランコに乗る／踊る／テレビを観る／パーティーをする／ピクニックに行く／遊園地に行く／動物園に行く／サーカスに行く／公園に行く／博覧会に行く／散歩する／友情を育む／喧嘩する／友達になる／仲間意識を育てる／幼稚園／保育所／学校 (50個)

(4) 領域「性格」

勇敢な／ものごとをやり遂げる／勤勉な／忠実な／自己犠牲／寛大な／正直な／親切な／思いやりがある／優しい／動物に優しい／きれい好き／プライドがある／好奇心が強い／陽気な／楽天的な／ユーモアがある／機知（機転・場面に応じたよい知恵）がある／責任感が強い／社交的な／静かな／真面目な／我慢強い／注意深い／お人好し／生意気な／欲張りな／怠け者／うぬぼれ／わがままな／不機嫌な／利己的な／強情な／あまのじゃく／頑固な／腕白（わんぱく）な／慌て者／はにかみ／臆病な／依存心が強い／飽きっぽい (40個)

(5) 領域「心」

助ける／協力する／恩を返す／与える／プレゼントする／感謝する／礼儀をわきまえる／得意になる／自慢をする／誇りをもつ／哀れむ／同情する／反省する／願う／感動する／愛する／愛される／尊敬する／楽しむ／幸せを感じる／探す／甘える／競争する／約束を守る／笑う／いたづらをする／からかう／嘘をつく／いじめる／陰口をいう／たくらむ／ごまかす／真似する／仕返しする／仲間外れにする／仲間はずれになる／へつらう／怒る／恨む／逃げる／はかなさを感じる／心配する／秘密をもつ／不注意なことをする／危険なことをする／不平を言う／誤解する／気にかける／うらやむ／当惑する／悲しむ／怖がる／恥ずかしがる／傷つく／退屈する／約束を破る／泣く (57個)

(6) 領域「家族」の結果

赤ちゃん／姉妹／兄弟／兄妹／姉弟／双子／異父母きょうだい／父／母／父性／母性／祖父／祖母／孫／おじいさん／おばあさん／おじさん／おばさん／父子家庭／母子家庭／かぎっ子／ひとりっ子／父母（保護者）の仕事／核家族／拡大家族／考える／結婚／夫婦／家族／性教育／休暇を過ごす／季節の行事／クリスマス／買い物をする／お客さん／良い日／悪い日／特別の日／父母の子ども時代／歳をとる／住居／庭造り (41個)

3) 各主題の結果

図2～7は、各領域の結果をグラフにしたものである。各領域に付された下位主題の数は41個から57個であった。領域ごとの結果は以下に示すが、スコアが負の値になった主題が占める割合は、領域「生活と自立」20.9%、領域「自我・自己形成」43.5%、領域「友達・遊び」

12.0%, 領域「性格」41.5%, 領域「心」26.3%, 領域「家族」24.4%となり, 領域間で差が見られた。

領域「生活と自立」に属する主題で, スコアが正の値となったものは34主題, 最も高いスコアを示したものが食べる (2.64), 最も低いスコアを示したものは自転車に乗る (0.00), スコアが2.0以上となったものは, 食べる (2.64), 片付ける (2.52), 眠る (2.48), 手伝う (2.20), 話す (2.00) の5主題であった。また, スコアが負の値となったものは, 口笛を吹く (-1.40), 指を吸う (-1.04), 一人旅 (-0.96), 子守をする (-0.64), 訪ねる (-0.48), 愛着物を持つ (-0.36), おまるに座る (-0.28), 一人で電車にのる (-0.28), 三輪車に乗る (-0.44) の9主題であった。

領域「自我・自己形成」に属する主題で, スコアが正の値となったものは34主題, 最もスコアが最も高い値を示したものが誕生日 (2.73), 最も低いものがペットの死 (0.02), 2.0以上となったものは, 誕生日 (2.73), 入学・入園 (2.33), 誉められる (2.20) の3主題であった。また, スコアが負の値となったものは, 継父 (義理の父) (-1.77), 継母 (義理の母) (-1.77), 父母の再婚 (-1.58), 父母の離婚 (-1.49), 喪失する (-1.09) など27主題であった。

領域「友達・遊び」に属する主題で, スコアが正の値となったものは44主題, 最もスコアが高い値となったものは友達とあそぶ (2.76), 最も低いものが空想遊び (0.00), スコアが2.0以上となったものは, 友達と遊ぶ (2.76), 幼稚園 (2.57), 保育所 (2.47), 学校 (2.47), 喧嘩する (2.33), 友達になる (2.32), 公園に行く (2.29), 動物園に行く (2.14), 四季の遊び (2.10) の9主題であった。また, スコアが負の値となったものは, 博覧会に行く (-0.90), 架空の動物と遊ぶ (-0.62), 家具と遊ぶ (-0.61), 日用品と遊ぶ (-0.38), 穴を掘る (-0.10), サークスに行く (-0.05) の6主題であった。

領域「性格」に属する主題で, スコアが正の値となったものは24主題, スコアが最も高い値となったものが優しい (2.65), 最も低かったものが怠け者 (0.10), 2.0以上となったものは, 優しい (2.65), 思いやりがある (2.25), 親切な (2.05) の3主題であった。また, スコアが負の値となったものは, 自己犠牲 (-1.05), あまのじゃく (-1.00), 機知 (機転・場面に応じたよいちえ) がある (-0.90), うぬぼれ (-0.85), 利己的な (-0.85), 強情な (-0.80), 依存心が強い (-0.80) など17主題であった。

領域「心」に属する主題で, スコアが正の値となったものは42主題, スコアが最も高い値となったものが, 笑う (2.42), 最も低かったものがうらやむ (0.11), 2.0以上となったものは, 笑う (2.42), 協力する (2.37), 感謝する (2.32), 楽しむ (2.32), 泣く (2.16), 約束を守る (2.11) の6主題であった。また, スコアが負の値となったものは, へつらう (-2.03), 当惑する (-1.54), はかなさを感じる (-1.32), 哀れむ (-0.89), 不平をいう (-0.73) など15主題であった。

領域「家族」に属する主題で, スコアが正の値となったものは31主題, スコアが最も高い値となったものがクリスマス, 最も低かったものが母性, 2.0以上となったものは, クリスマス (2.83), 母 (2.50), 家族 (2.50), 父 (2.44), 赤ちゃん (2.39), 買い物をする (2.26), 兄弟 (2.22), 季節の行事 (2.17), 姉妹 (2.09) の9主題であった。また, スコアが負の値となったものは, かぎっ子 (-1.44), 性教育 (-1.77), 異父母兄弟 (-0.83), 庭造り (-0.71), 父子家庭 (-0.11) など10主題であった。

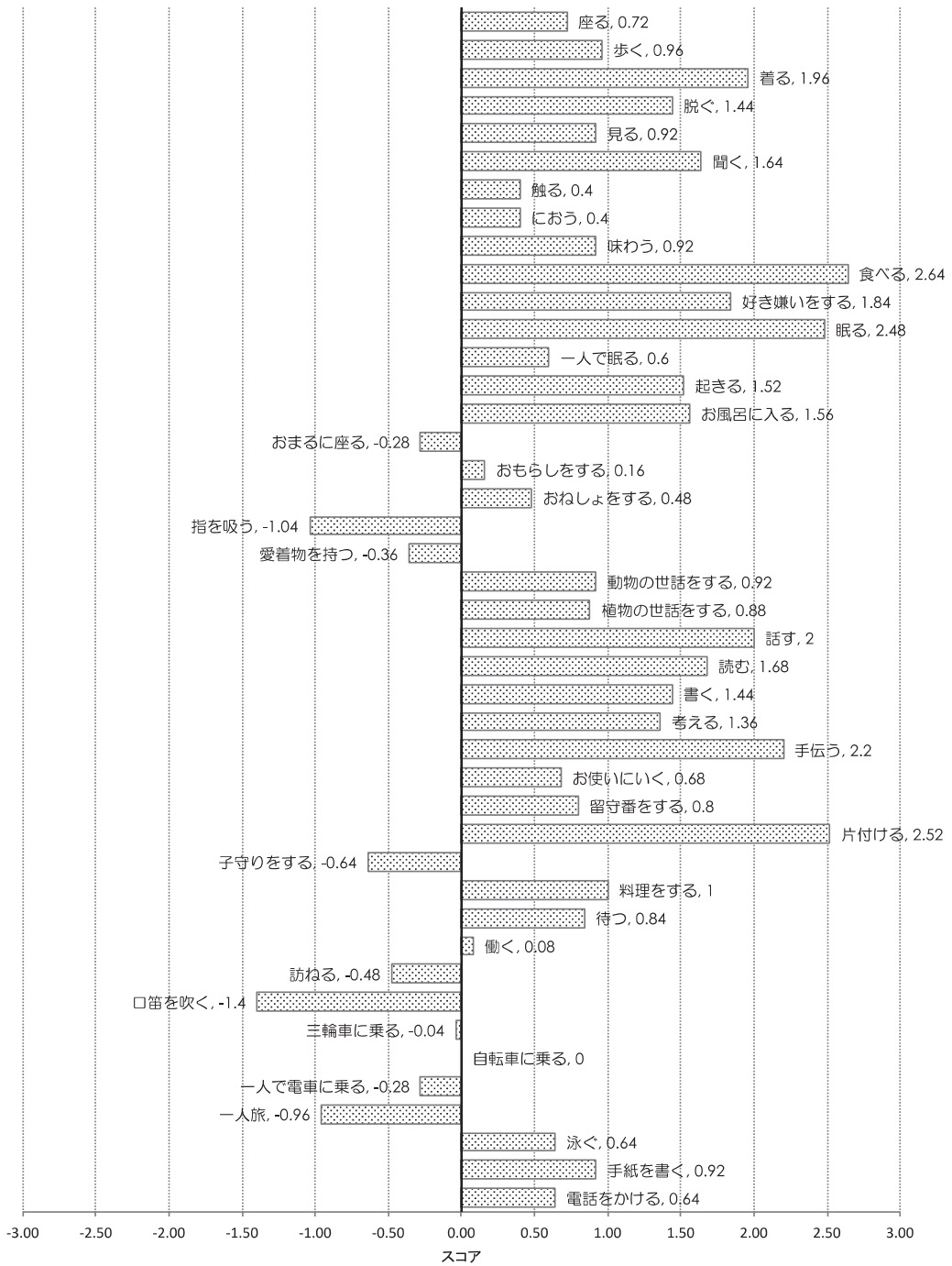


図2 領域「生活と自立」

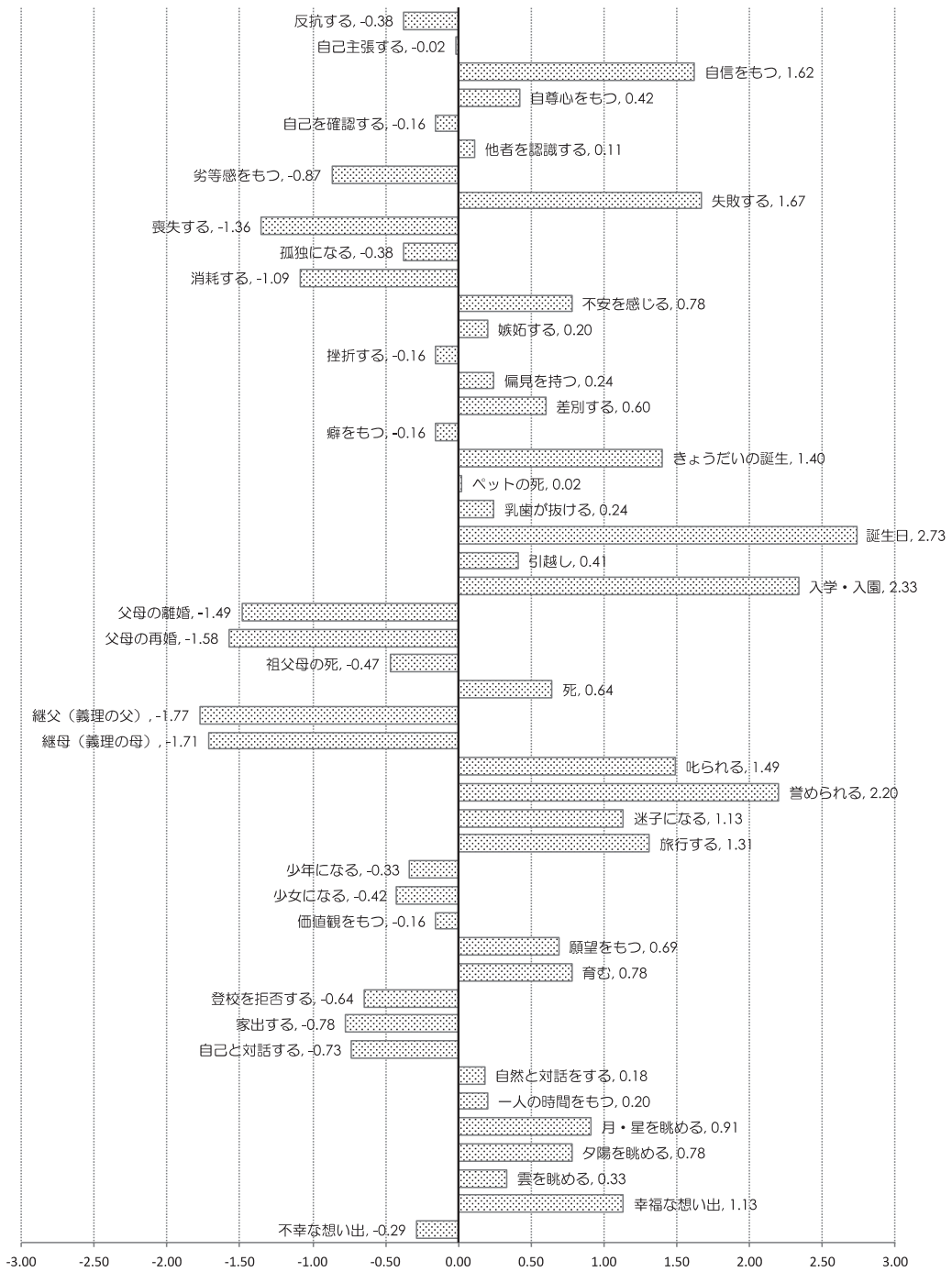


図3 領域「自我・自己形成」

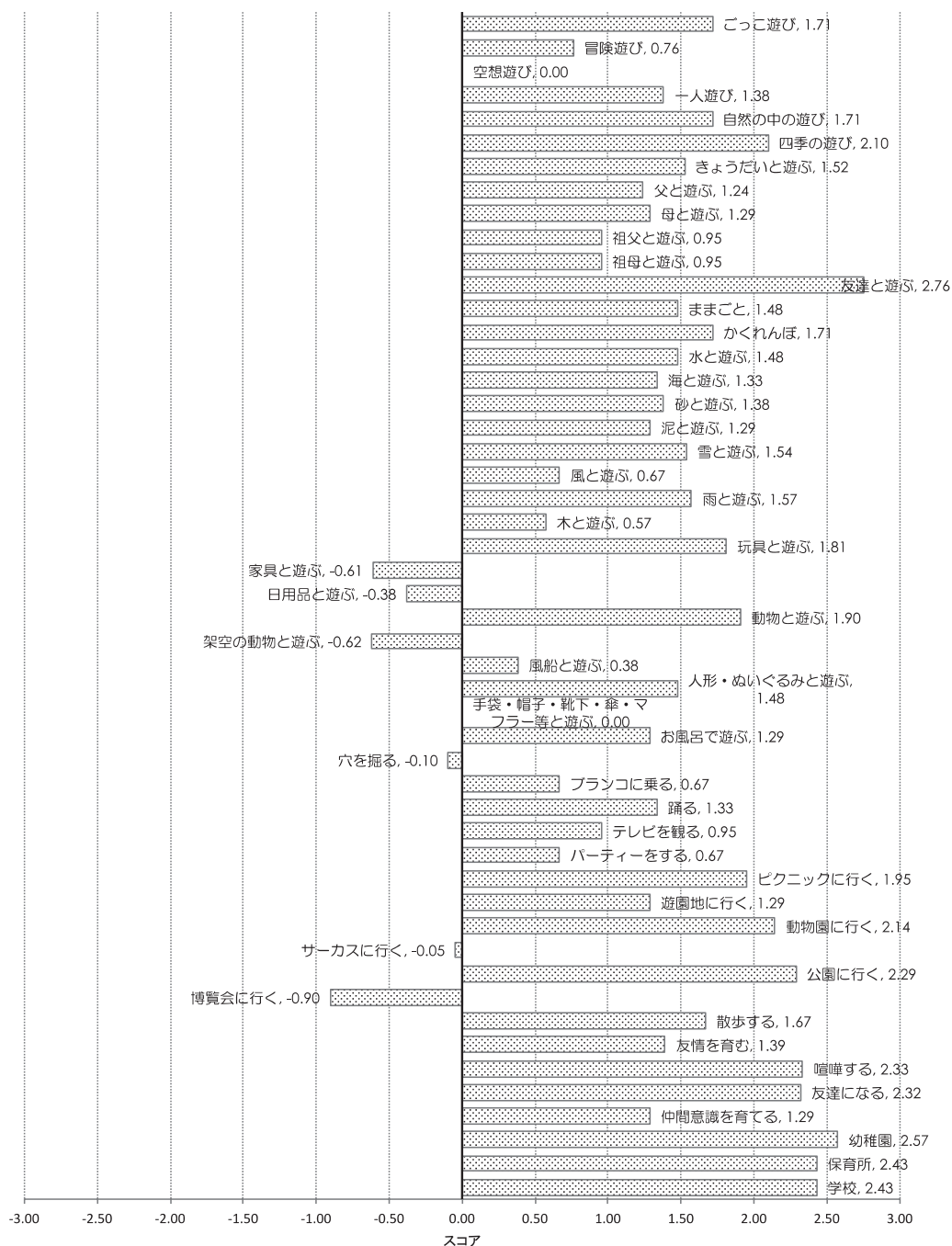


図4 領域「友達・遊び」

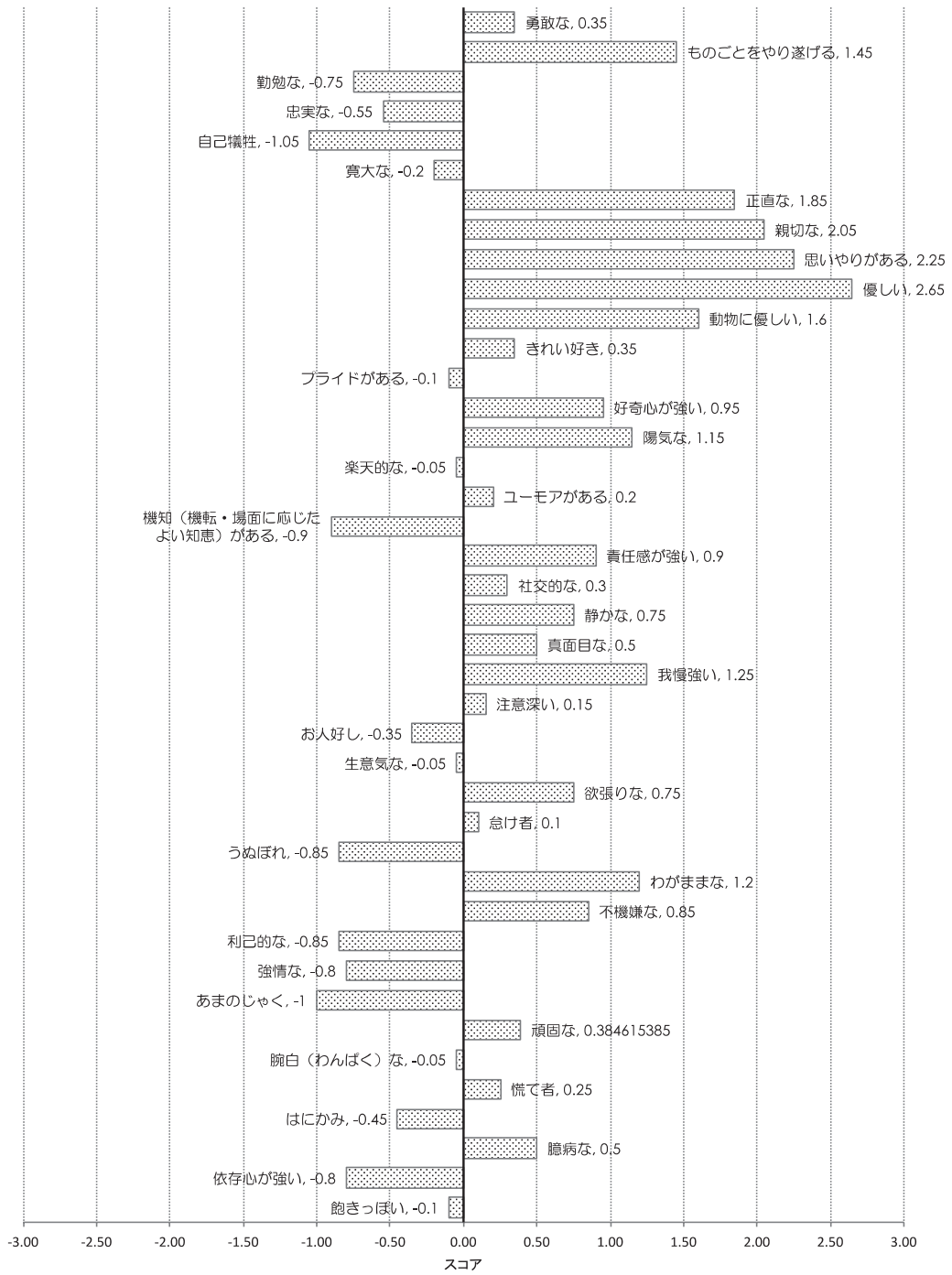


図5 領域「性格」

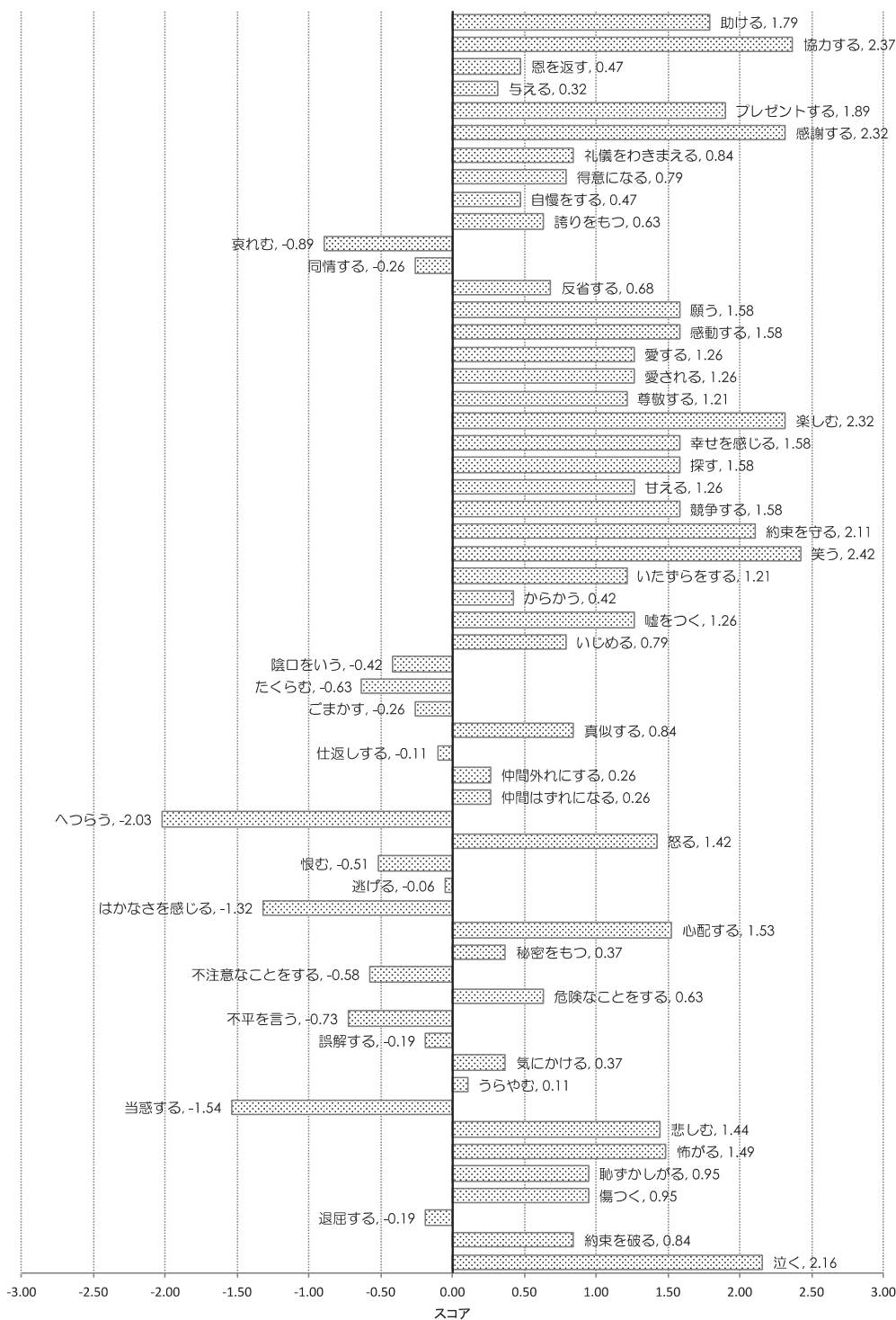


図6 領域「心」

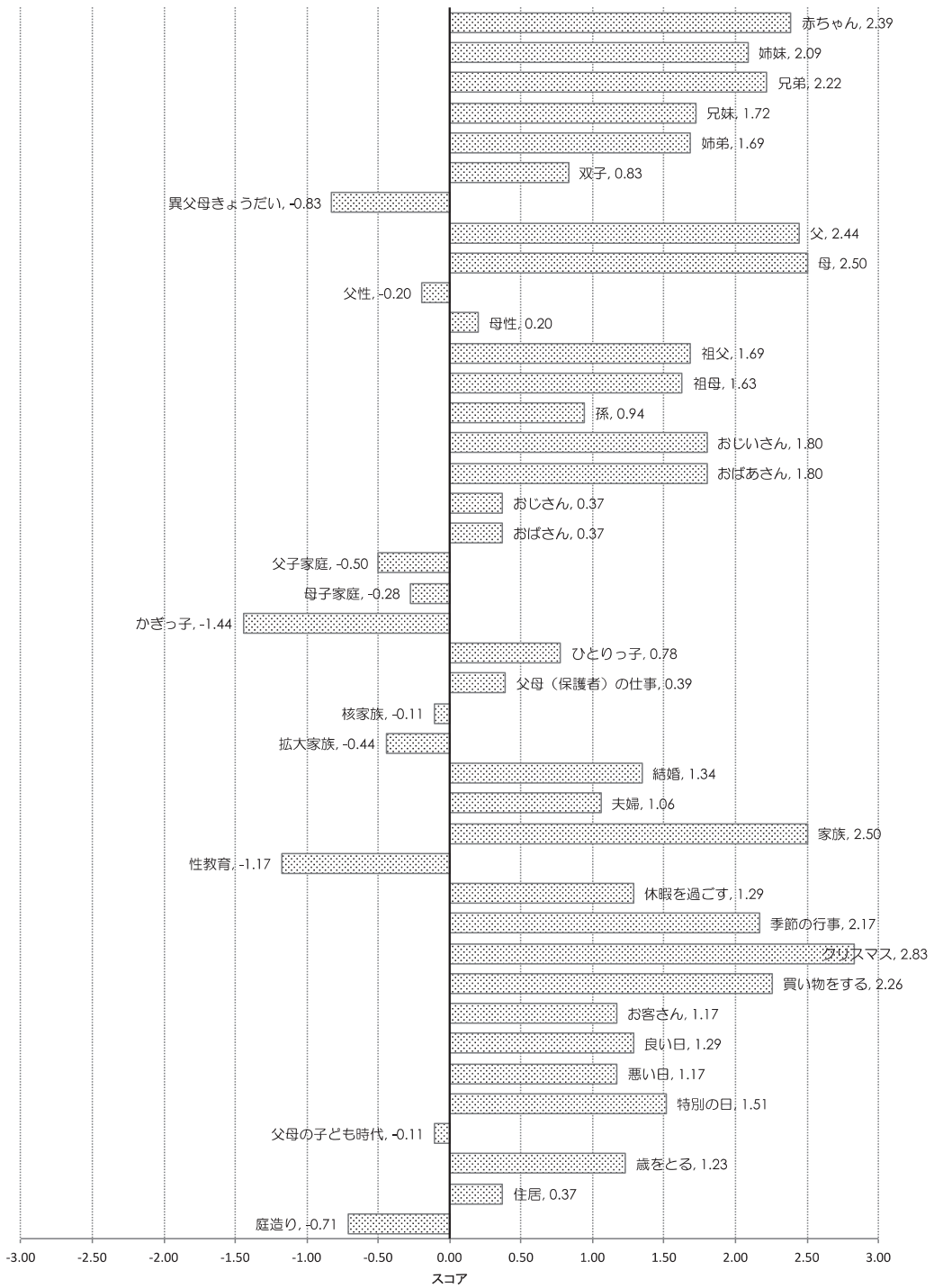


図7 領域「家族」

4 考 察

佐々木（2000）の構築した「子どもの心を理解するための絵本データベース」で利用されている6つの領域と280個の下位主題について、保育者養成課程にある学生を対象に保育場面で絵本を選択する際にそれらの下位主題をどの程度利用するかについて調査を行ったところ、利用される可能性が高い項目が含まれている割合は、領域間で差がある結果となった。最も利用される可能性の高い下位主題の含まれる割合が高かったのは、領域「友達・遊び」であった。この領域を構成する下位主題50個のうち44個、88%が正のスコアを示し、正のスコアを示した下位主題の割合は、他の領域と比較して最も高い結果となった。このことから、領域「友達・遊び」を構成する下位主題の多くは、絵本を検索する際に利用される可能性が高いことが示された。最も利用される可能性が低い下位主題が含まれる割合が高かったのは、領域「自我・自己形成」であった。この領域を構成する下位主題48個のうち21個、43.8%が負のスコアを示し、負のスコアを示した下位主題の割合が、他の領域と比較して最も高い結果となった。したがって、領域「自我・自己形成」を構成する下位主題の多くは、絵本を検索する際に利用される可能性が低いことが示された。

このような結果となった理由として、領域の名称からも考えてみたい。乳幼児期に子どもにとって遊びは生活の全てであるように、遊びや友達は常に子どもたちの身近に存在する、したがって領域「友達・遊び」に含まれる下位主題の多くは、保育者養成課程に在籍する学生にとって、子どもと結びつけて考えやすかったものと考えられる。一方で、領域「自我・自己形成」は、0歳～6歳が自我や自己を形成する過程にある子どもたちであるにも関わらず、乳幼児期の子どもよりやや上の年齢をイメージさせる下位主題が多く含まれていたため、この領域を構成するそれらはあまり利用されない可能性が高い結果となったと考えられる。

先にも述べたとおり、佐々木（2000）が採用したこれらの主題は、「絵本心理学」を構想においた「子どもの心を理解するため」のデータベース構築のためのものである。今回実施した保育者養成課程にある学生を対象とした調査では、設定された下位主題について「保育場面で利用するか」について回答するよう求めており、「子どもの心を知るため」と「保育の中で利用する」ためでは、利用目的が異なるため、280個の主題全てが利用されることは予想していなかった。調査の結果からも、絵本を検索する際に利用する・しないは下位主題によって差があることが示された。

下位主題のうちスコアが高いものは、絵本を検索する際に利用される可能性が高いもので、具体的には、「食べる」「片付ける」「誕生日」「入学・入園」「友達と遊ぶ」「喧嘩する」「優しい」「思いやりがある」「協力する」「笑う」「クリスマス」「母」「家族」等である。これらは、保育場面でもしばしば用いられ、日常の保育場面の延長上にある言葉であると考えられる。また、下位主題のうちスコアが低いものは、絵本を検索する際に利用されない可能性が高いもので、「口笛を吹く」「一人旅」「継父（義理の父）」「継母（義理の母）」「博覧会に行く」「架空の動物と遊ぶ」「自己犠牲」「あまのじゃく」「へつらう」「当惑する」「かぎっこ」「性教育」等である。これらは、幼稚園教育要領や保育所保育指針、保育雑誌などでも目にするのが少なく、0歳から6歳までの子どもと関わることの多い保育者養成課程にある学生にとっては、すぐにはイメージさ

れにくいものであったと考えられる。また、今回の調査では、それぞれの下位主題について「利用する」「やや利用する」と回答した理由、もしくは「やや利用しない」「利用しない」と回答とした理由については調査を行っていないため、推測の域を出ないが、下位主題には、例えば「継父（義理の父）」「継母（義理の母）」や「機知（機転・場面に応じた知恵）がある」等、対象となった学生が日常的に使用することが少ないのではないかと思われるものも複数含まれており、そのような理由でイメージしにくく、利用されない可能性が高い下位主題に位置付いた可能性も考えられる。

以上、佐々木（2000）の示す6つの大主題と280個の下位主題について、それらをそのまま書誌情報として学内図書館に所蔵されている絵本の情報に追加することができるかについて検討してきたが、保育場面で子どもに読み聞かせるための絵本を検索するツールとしての「保育のための絵本データベース」を作成するにあたっては、学生が検索する際に想起しにくいものも含まれており、そのまま利用することは難しいといえる。また、「保育のための絵本データベース」を作成するにあたっては、日常の保育の延長上にあるキーワードを下位主題として設定することが望ましいことも示唆された。本研究では、子どもに読み聞かせることを想定して絵本を検索する場合、利用される可能性の高い下位主題と利用されない可能性が高い下位主題が存在することは示すことはできたが、利用されない可能性が高い下位主題について、それらがなぜ利用されないのかについては明らかにすることができなかった。今後、利用されない理由についても検討することで、より利用される下位主題に置き換えていくことができると考えている。

佐々木（2000）の示した、大主題とそれぞれに属する下位主題によって構成される「子どもの心を理解するための絵本データベース」の枠組みは、「保育のためのデータベース」を作成するにあたって活用することが期待できる。すなわち日常保育場面と関連の深い大主題を設定し、それぞれの主題に下位主題を設定することで、絵本の検索がしやすくなるものと考えられる。今後「保育のための絵本データベース」作成を進めるにあたっては、学生がイメージしやすい下位主題と置き換えることが必要であるが、さらに大主題のレベルでの主題も日常の保育場면을想起しやすいものに再設定することで、より精度を高められるのではないだろうか。

最後に本題からは逸れるが、今回の調査の中で、「継父（義理の父）」「継母（義理の母）」「父母の離婚」「父母の再婚」「父」「異父母きょうだい」「父性」「父子家庭」「母子家庭」といった下位主題が利用されない可能性があるものとして位置付けられたことに触れておきたい。これらの中には、保育者となる学生の、家庭状況へは個別の配慮をすべきだという思いが垣間見られるとともに、「母」「母性」は利用される可能性が高いものとして位置付けられ、「父」は、利用される可能性は高いが「母」より低いスコアを示し、「父性」は利用される可能性が低いものとして位置付けられたことに興味を惹かれたことを特筆しておく。

また、本研究を進めるにあたって、調査に協力してくれた学生及び忙しい合間を縫って、データ処理の方法など惜しみない協力をしてくださった、本学情報処理センターの皆様篤く御礼を申し上げます。

註

- 1) 平成27年度鹿児島県図書館大会は平成27年11月18日に開催された。親子読書をテーマとした第2分科会では、始良市錦江幼稚園及び南九州市知覧小学校の取組みについて実践報告が行われた。
- 2) かがくい ひろし 「おふとん かけたら」 ブロンズ新社 2009
- 3) 香山美子作 柿本幸造絵 「ごろりん ごろん ころろろろ」 ひさかたチャイルド 1984
- 4) 立本しおり・肱黒柚佳・吉村京華・日高祥子 (2013) 「乳幼児を対象とした絵本の分類方法の開発」 『こども学専攻卒業研究 こども学研究 平成25年度』
- 5) 森木朋佳 (2015) 「図書館と連携した絵本データベース作成の試み」 『鹿児島純心女子短期大学紀要』 第45号, 87-93.
- 6) 佐々木宏子 (2000) 「絵本の心理学 子どもの心を理解するために」 新曜社, p.40, 1.10より引用
- 7) 同上, 「はじめに」 p.5, 1. 13-15
- 8) 例えば, 平成27年度に実施した保育実習 I (保育所) について, 実習で経験した内容について質問したところ, 実習に参加した学生55名中54名 (98.2%) の学生が「絵本の読み聞かせ」を実習で経験したと報告している。
- 9) 佐々木宏子 (2000) 前掲, p.30-p.39

文献

- 1 立本しおり・肱黒柚佳・吉村京華・日高祥子 (2013) 「乳幼児を対象とした絵本の分類方法の開発」, 『こども学専攻卒業研究 こども学研究 平成25年度』
- 2 佐々木宏子 (2000) 「絵本の心理学 子どもの心を理解するために」 新曜社

